

フッ素樹脂不使用の耐油紙に脚光

近年、有機フッ素化合物（PFAS）の使用を規制する動きが欧米を中心に強まり、食品包装においてはフライドポテトなどの包み紙として利用される耐油紙でフッ素樹脂を使用しないタイプの需要が高まっています。独自の抄紙技術を生かして耐油紙を製造・販売している当社では、環境意識の高まりを踏まえてフッ素樹脂不使用の耐油紙を投入しており、コンビニエンスストアやファストフード店で採用が増えています。当社の強みである「ニーズを的確に捉える力」と「技術開発力」を掛け合わせ、今後も幅広い製品を提供していきます。



耐油紙の使用イメージ

ログミーファイナンスの利用を開始

今年度から、ログミー（株）が提供する決算説明会の内容を全文書き起こして公開するサービス「ログミーファイナンス」を導入しました。同社の提携先企業のサービスを通じて、機関投資家やアナリスト、個人投資家などのより幅広い方に情報を配信し、当社への理解促進につなげていくことを目的としています。当社では、引き続き株主・投資家の皆様との積極的な対話やIR（投資家向け広報）活動の推進に努めてまいります。



2025年3月期第2四半期
決算説明会の書き起こし
記事はこちらから御覧いた
できます。



<https://finance.logmi.jp/articles/380627>

「統合報告書2024」を発行

2024年版の統合報告書を発行しました。中期経営計画「LSV 2030-Stage 2」の方針や施策、新たに見直したマテリアリティとKPIを紹介するとともに、経営層のメッセージやESG情報なども充実させ、当社グループの企業価値向上と持続的成長への方策を説明していますので、ぜひ御覧ください。



当社ホームページの
株主・投資家情報サイ
トから御覧いただけ
ます。



www.lintec.co.jp/ir/library/annual.html

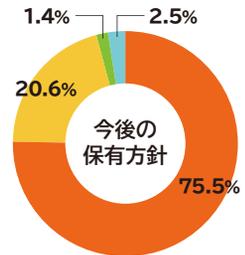
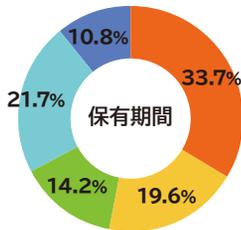
アンケート結果のご報告

読者アンケートへのご協力ありがとうございました

「LINTEC WAVE」第95号(2024年6月発行)で皆様にご協力をお願いしたアンケートでは、合計1,492件のご回答を頂きました。アンケートの集計結果やお寄せいただいた貴重なご意見・ご要望を基に、今後も一層の経営強化やIR活動の充実に努めてまいります。

回答者の保有期間と今後の保有方針について

半数以上の方が保有期間5年以上の長期保有者であり、95%以上の方が「現状のまま継続保有」あるいは「買い増しして継続保有」をお考えです。



多く頂戴したご意見・ご要望の中から一部をご紹介します

安定的にPBR1倍以上となるよう
株価対策を期待している

半導体関連製品の将来性に
強く期待している

より充実した情報発信に
努めてもらいたい

将来の発展に寄与する
新技術や新製品をWAVE誌面上で
紹介してほしい

社名認知向上に向けて
ネット広告の活用も進めてほしい

《ご協力ありがとうございました》

アンケートにご回答いただいた皆様には、当社高級印刷用紙「ニューアージュ CoC」を使用した2025年版当社オリジナルカレンダーをお送りさせていただきました。今回は、世界各地の街や郊外など、人々の穏やかな暮らしがうかがえる風景を、白い輪郭線が印象的な独特の水彩画で描いた木佐貫 悦深氏の作品集です。



絵本で、くっつく

岸田 雪子

絵本が好きです。どんな絵本も表紙を見るだけで心の中で、にんまり。『ぐりとぐら』『だるまちゃん』など歴史的な作品や『ピー、うみへいく』など昭和時代のソフトカバーの絵本など、息子の絵本、私の絵本が我が家の本棚にはぎっしりと並びます。

絵本の魅力の一つは、言葉に「余白」があること。研ぎ澄まされた短い言葉が読者の想像を育てます。もう一つは「読んでもらう」ことの魅力。自分で読むのもいいですが、信頼できる人の声で、眼差しを注がれながら、時には膝の上で、読み手の体温を感じながら「読んでもらう」ことの幸福感は何ものにも変えがたい記憶となります。

そんな絵本の力を借りたくて、ことしも東北の被災地の保育園に絵本を携えお邪魔しました。初めて伺ったのが2012年。当時勤めていた日本テレビの有志で声をかけあい開いた「読み聞かせ会」でした。津波で流されてしまった保育園の跡地に建てられたプレハブに集う子どもたちの中には、自身も津波に押し流され、家族を失い、眠れない夜を重ねた子どもも少なくありませんでした。



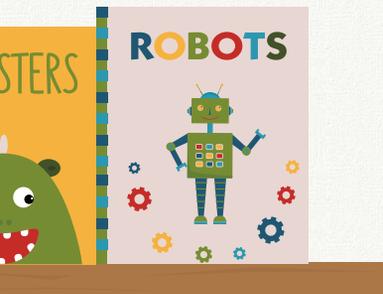


少しでも笑顔の時間を、との想いからのご縁が続き、ことしも宮城県東松島市の3つの保育園に訪問させて頂きました。大型絵本の「おしくら・まんじゅう」を机の上に開き、子どもたちに声をかけながら読み進めれば、子どもたちも「そーれ♪おしくら〜」と一緒に大笑いしながら声を上げてくれます。「読んでもらう」ことで、子どもたちは、かがくいひろしさんという作者と対話しながら、読み手である私とも対話しています。「聴かせる」だけでなく、心を通わせる「対話」へとつながることをいつも大切にしています。

アタッチメント、という言葉が、最近随分と注目されるようになりましたが、それに通じる意義が、絵本にはあるように思います。アタッチメントは、心理学の言葉で“不安を和らげて安心したいという本能的な欲求”を指します。それを満たすのが「信頼できる人とのつながり」です。傷つきや不安があってもアタッチメントを通して人は回復し、新たな世界に踏み出すことができる。去年、政府がこども政策の基本方針を定めた「こども大綱」策定に、私も委員として参加しましたが、「こども大綱」にもアタ

ッチメントの重要性は明記されています。相手は、親でなくても良いのです。特定の信頼できる誰かとの安心できるつながりは、人の育ちに欠かせないものであると考えられています。アタッチメントは「くつつく」という意を含みますが、物理的にも「くつつき」ながら読んでもらうことも多い絵本は、アタッチメントのきっかけにもなりうるかもしれません。あたたかなつながりが、いつも子どもたちの身近にあってほしいと願います。

ことし読み聞かせした絵本には『Wピース』もありました。私も出演させて頂いている「中居正広の土曜日な会」から生まれた新しい絵本で、作者は中居正広さん、劇団ひとりさん、古市憲寿さんの御三方。中居さん作詞・作曲・歌唱の新曲『Wピース』もついた作品ですので、子どもたちと一緒に、“歌って踊る”読み聞かせ会となりました。絵本の可能性は無限大です。



岸田 雪子 (きしだ ゆきこ)

ジャーナリスト。東海大学総合社会科学研究所客員教授。元日本テレビ報道局解説委員。こども家庭審議会 基本政策部会委員。著書「いじめで死なせない」(新潮社)、「スウェーデンに学ぶ『幸せな子育て』子どもの考える力を伸ばす聴き方・伝え方」(三笠書房)。現在はテレビ朝日「中居正広の土曜日な会」、フジテレビ「Mr.サンデー」ほかに出演中。